

経口抗ウイルス薬治療について

現在この疾患の重症化阻止に特化した経口薬が2種類（パキロビッドパック、ラゲブリオ）、重症化リスクのない方への主に症状緩和のための経口薬が1種類（ゾコーバ）あります。経口薬は当院と対応薬局で連携し、ご自宅に配送します（お届けまでに時間がかかることもあり得ます）。適応のある方には事前に経口薬についての同意説明文書をお渡しします。ご希望の場合よく読み署名をしておいてください。これらの経口薬は、厚生労働省の特例承認薬ではありますが、おおむね重篤な副作用は、今のところあまり認められていないようです。しかし、今後たくさんの人が投与を受けた場合には新たな問題点が認められることもあり得ます。

新型コロナウイルス感染症抗ウイルス薬投与条件

①投与の時点で発症日から5日以内・年齢（ラゲブリオ18歳以上、パキロビッド成人または12歳以上かつ体重40kg以上）・妊婦又は妊娠している可能性がない（ラゲブリオのみ、パキロビッドは投与可能）これらを満たし、かつ以下のうち一つ以上を満たす。

②年齢（ラゲブリオ61歳以上、パキロビッド60歳以上）・肥満（ラゲブリオBMI30以上、パキロビッド25以上）・一部を除く活動性の癌・慢性腎臓病・慢性肺疾患（治療中の喘息を含む）・重篤な心血管疾患（心不全、心筋梗塞、脳卒中、血管手術後等）・高血圧症、喫煙歴（パキロビッドのみ）・糖尿病・神経発達障害（ダウン症候群、脳性麻痺、その他の遺伝性疾患、重度の先天異常＜ラゲブリオはダウン症候群のみ＞）・脳神経疾患（多発性硬化症、ハンチントン病、重症筋無力症等＜全てラゲブリオのみ＞）・免疫抑制疾患または免疫抑制剤投与されている（コントロール不良のHIV感染、臓器移植後、一部のリウマチ膠原病患者等）・新型コロナ感染者と無関係に人工呼吸器などの装着がなされている者（パキロビッドのみ）

③ゾコーバの投与条件（重症化リスクのない患者さん向け）：新型コロナ感染症で12歳以上、発病後3日目以内の開始が望ましい。

抗ウイルス薬処方、調剤の実際

コロナ関連検査陽性確認、患者様の同意（口頭及び同意説明文書への署名）後、当院で処方し、当院の在庫の抗ウイルス薬を療養先にお持ちするか、対応薬局からお持ちすることになります。薬は特に副作用などなければ5日間飲み切ることが基本となっています。この治療は重症化阻止が目的ですので、ご本人の容態が軽いうちに使い始めるものです。悪化してから開始しても遅いこともご理解ください。

各経口抗ウイルス薬の特徴

パキロビッドパック：利点：重症化阻止率90%程度で、欧米では第一選択薬。妊婦にも使用可能。

欠点：他の薬との相性の問題があり、薬を常用されている方は、それを申告し、医師と薬剤師が安全を確認の上処方調剤いたします。腎機能低下傾向のある方などは本薬の減量が必要です。大きな錠剤を一度に複数飲みますので、錠剤の苦手な方は飲み辛いかと存じます。錠剤を砕いて飲むことはできません。また非常に稀に、内服終了数日後コロナの症状やウイルス排泄のぶり返しが起こることがあり、場合により再度隔離を要することがあります。

ラゲブリオ：利点：他の薬との相性問題はありません。腎機能の悪い方でも量の調節は必要ありません。大きなカプセルを1度に4カプセル飲む必要ありますが、カプセル内服苦手な方は、カプセルを外して中の粉を水に溶いて飲むことは可能です。具体的な方法に関しては、医師や薬剤師がご指導します。

欠点：重症化阻止率は30%程度とパキロビッドパックに比べて低いようです。妊婦さんには使えません。また非常に稀に、内服終了数日後コロナの症状やウイルス排泄のぶり返しが起こることがあり、場合により再度隔離を要することは、本薬でも報告がございます。

ゾコーバ：利点：症状が使わない場合に比べて1日短縮します。ウイルス排泄量が減り、人にうつしにくくなるのが期待できます。1日1回内服です。

欠点：妊婦には使えません。他の薬との相性の問題があり、薬を常用されている方は、それを申告し、医師と薬剤師が安全を確認の上処方調剤いたします。内服は1日目3錠、2日目以降1錠となっており、間違えないようにしなければなりません。ウイルス排泄のぶり返しに関しては不明です。